

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立田辺高等学校 】

<スポーツ庁テーマ>

1実践テーマ	【 I・IV・V 】
2実施対象者	京都府立田辺高等学校 1～3年生 運動部活動加入生徒 教職員
3展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 () ② 行事名 (オリンピック・パラリンピック教育講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4目 標 (ねらい)	(1) 日本代表のアスリートを影ながら支える取り組みや、スポーツの裏側に触れることにより、運動部活動に所属する生徒が、スポーツにおけるコンディションや精神面の重要性を学ぶ。 (2) アスリートを支える側の役割を知ること、スポーツ界への今後の関わり方について考えさせていく。
5取組内容	【オリンピック・パラリンピック教育講演会】 (1) 日 時 令和2年10月15日 (木) 午後1時00分～午後2時30分 (2) 場 所 本校体育館 (3) 対 象 本校運動部活動加入生徒・教職員 (4) 講 師 西村 拓也 氏 (バスケットボール日本代表マネージャー) 一柳 武男 氏 (日本代表アスレティックトレーナー) <講師プロフィール> 西村 拓也 氏 京都府出身。大学卒業後、渡米。 フロリダ州立大学大学院スポーツマネジメント 学科に入学。留学中、様々なインターンや仕事を 経験、主に女子バスケットボール部のマネー ジャーとして従事した。大学院卒業後、日本バス ケットボール協会入社。男子代表マネージャーと して、FIBA アジアカップ、アジア競技大会、ワ ールドカップ予選、中国ワールドカップを経て、

東京 2020 へ。

一柳 武男 氏 愛知県出身。高校卒業後、渡米。アラバマ大（アスレティックトレーニング学士号）。サウスカロライナ大（アスレティックトレーニング修士号、理学療法 博士号）アメリカでは大学、NFL、NBA G リーグなどでアスレティックトレーナーとして活動。2017年4月より日本代表男子バスケットボールの専任アスレティックトレーナーとして活動するために帰国し現在に至る。

(5) 内 容

① 講 演「日本代表を支える力」 西村 拓也 氏
一柳 武男 氏

- ・両講師（西村氏・一柳氏）から、自己紹介と高校卒業から現在の日本バスケットボール協会に就くまでの経緯や日本バスケットボール協会でのそれぞれの仕事内容について
- ・西村氏から「日本代表チーム」という存在、代表選手の日常、スケジュール、ルーティンの話と、スポーツ業界で働くためには何が必要かについて

③ 実技講習「動きの重要性」 一柳 武男 氏

- ・一柳氏から「動きの重要性」の説明を受けた後、「動きのチェックリスト」に沿って全受講生が二人組になり、それぞれの動きのチェックを実演



6主な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック出場権獲得を目指し、世界と競い合うまでに登り詰めるようになった代表の取組や、国の代表として国際試合に向かう心構えなど、代表関係者でしか知り得ない苦労や情報、世界と戦うスピリッツなどを知る事ができた。 ・日本代表選手の年間スケジュールや強化計画、代表マネージャーの仕事、代表トレーナーの仕事など、代表選手を支える裏方の具体的なサポートの方法を知ることができた。 ・両講師ともに留学を経験しており、単身で渡米した際の様々な苦労、挫折、経験や、文化の壁を乗り越えた方法など、今後留学を考える生徒たちへの刺激や、社会に出た際の困難への対処方法について参考になった。 ・「動き」とは、パフォーマンスやスポーツスキルの土台となり、不適切な動きや姿勢はケガの原因にも繋がることを学んだ上で、「動きのチェックリスト」を元に実技指導を受ける。多くの生徒は、簡単な動きを正しく行う事がなかなかできず、常日頃のスポーツを実施する際の姿勢がパフォーマンスの向上に重要な役割を果たしていることを実感できた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新型コロナウイルス感染拡大の中、講演と実技を組合せ実施する為、参加人数を調整し、十分な活動場所を確保した。 (2) スポーツの世界には選手だけでなく、それを支える役割を担っている裏方の人達の活躍が常にあることを知らせたかった。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> (1) 講師の選定 今年度は東京オリンピックの実施が予定されていたため、実際の代表選手になかなか声を掛けづらかった。トップアスリートとの日程調整方法は困難な為、検討が必要と思われる。 (2) 実施形態の検討 コロナ禍の中では、計画段階で様々な工夫が必要となる。参加人数や実施場所、実施方法など、有効な実施形態の検討が必要である。
9来年度以降の実施予定	<p>トップアスリートを講師として迎え、実施したい。対象生徒や実施形態については、上記の課題を考慮し、効果的に実施できる方策を今後も継続して検討する。</p>